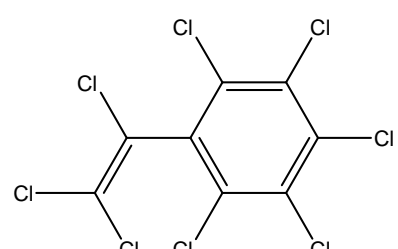


1	CAS 番号：29082-74-4	物質名：オクタクロロスチレン
化審法官報公示整理番号： 化管法政令番号： 分子式：C <sub>8</sub> Cl <sub>8</sub> 構造式： 分子量：379.71		
		

### 1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は  $1.7 \times 10^{-3}$  mg/L (25°C、計算値)で、分配係数（1-オクタノール/水）(log Kow) は 6.29、蒸気圧は  $1.3 \times 10^{-5}$  mmHg ( $1.8 \times 10^{-3}$  Pa)(25°C、計算値)である。

本物質は非意図的生成物のため、用途の情報はなく、商業的な生産はないとされている。本物質は塩素を使用した高温の工業プロセスにおいて副生成物として生ずるため、これら工程の排水が主な排出源とされている。このほか塩素化タールが廃棄された埋め立て処分場から地下水への浸出、廃棄物焼却による飛灰の大気への放出が挙げられている。また、有機塩素系化合物の不完全燃焼による主成分の一つに挙げられている。

### 2. 曝露評価

化管法第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壤に等量排出された場合、土壤に分配される割合が多かった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度（PEC）は、共用水域の淡水域、海水域ともに 0.000046 µg/L 未満程度となった。

### 3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC<sub>50</sub> 5.8 µg/L が信頼できる知見として得られた。藻類及び魚類において採用できる知見は得られなかったが、緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* 及びメダカ *Oryzias latipes* の急性毒性値は、溶解度超であると考えられたため、アセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度（PNEC）0.058 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、甲殻類ではオオミジンコ *D.magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 0.91 µg/L が信頼できる知見として得られた。藻類において採用できる知見は得られなかったが、緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の慢性毒性値は、溶解度程度であると考えられたため、アセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度（PNEC）0.0091 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 0.0091 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域、海水域ともに 0.005 未満であり、現時点では作業の必要はないと考えられる。

有害性評価（PNEC の根拠）			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	0.0091	淡水	<0.000046	<0.005	○	○
					海水	<0.000046	<0.005		

#### 4. 結論

	結論	判定
生態リスク	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない

(○)：情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(-)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す